

Economic Indicators

発表日: 2018 年 10 月 5 日(金)

景気動向指数(2018 年8月)

～4ヶ月ぶりの上昇だが、均してみれば改善ペースは鈍化～

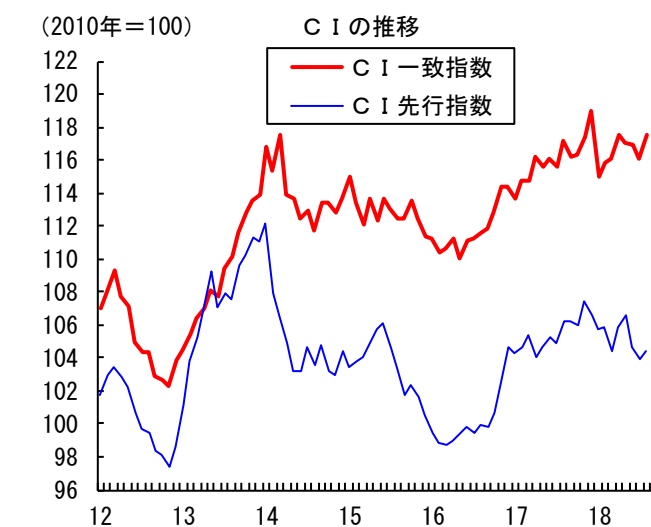
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主席エコノミスト 新家 義貴 (Tel: 03-5221-4528)

○年明け以降、改善ペースが鈍化

内閣府から公表された 2018 年 8 月の景気動向指数では、C I 一致指数が前月差+1.4 ポイントとなった。有効求人倍率などがマイナス寄与となったものの、耐久消費財出荷指数や投資財出荷指数などの押し上げが大きかった。

C I 一致指数はプラスだったが、これまで3ヶ月連続でマイナスだったことの反動の面も大きく、強い数字ではない。水準でみても、直近のピークである 17 年 10-12 月の水準を下回っており、18 年入り以降、足踏み感が出ていることが確認できる。鉱工業指数において、年明け以降、増勢が緩やかになっていることが影響していると考えられる。景気の回復傾向は続いているものの、C I でみる限り、その回復ペースは足元で鈍化していると判断される。



(出所)内閣府「景気動向指数」

○ 基調判断は、来月も辛うじて「改善」維持か

内閣府によるC I 一致指数の基調判断は、23ヶ月連続で「改善」となった。今月は、前月差がプラスになったことに加え、3ヶ月後方移動平均前月差も+0.13 とプラスに転じたことで、基調判断の下方修正は避けられている。

なお、9月分で基調判断が「足踏み」に下方修正されるには、前月差▲2.7 ポイント以上の落ち込みが必要である。9月については、台風や地震といった自然災害の影響で工場の操業停止や訪日外国人消費の減少、個人消費の下押しなどの悪影響が生じたとみられ、C I 一致指数はマイナスになる可能性が高い。ただ、前月差▲2.7 ポイントという落ち込みは過去もあまり例がなく、9月についてもそこまでのマイナスにはならないだろう。9月の基調判断も、辛うじて下方修正は回避され、「改善」が維持される可能性が高そうだ。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



株式会社 第一生命経済研究所

Economic Indicators / 定例経済指標レポート